

マングローブと滝の景色：ヒナイ川

ここはマングローブ林や船浦湾の干潟と、その先にあるピナイサーラの滝が見渡せる。落差 55m もあるピナイサーラの滝は沖縄県で最も高い滝である。名前の由来は白く細い流れの様子から、「垂れ下がった髭」という意味からつけられた。滝の上の景色は、マングローブ林からその先にある鳩離島や鳩間島を見渡すことができる。

マングローブは、多くの恵みを環境に与え、他の森林より多くの炭素を土壌に蓄え、高波による海岸線の侵食を幹とユニークな支柱根や膝根で和らげ、海水の内陸水路や畑への侵入を防ぎ、海に流れる淡水をろ過する役割をしている。

また、マングローブ林は、複雑に入り組んだ生態系元になっている。落ち葉や有機物の粒子は、キバウミナヤシレナシジミ、カニなどの生き物に食され、後に植物プランクトンの栄養分に変えられ、マングローブの根に自生する魚の餌となる。マングローブ林には多くの鳥も集まり、シギのような細長いくちばしで泥の中の餌を探すものや、サギなどもいる。ミナミトビハゼは珍しい水陸両用魚で、泥を跳ねて移動し、島の方言では「トントンミー」と呼ばれている。